

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1174800548
法人名	有限会社 彩の里
事業所名	グループホームわらび苑
所在地	〒368-0102 埼玉県秩父郡小鹿野町大字長留3073 (電話) 0494-75-1890

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 4人, 非常勤 12人, 常勤換算	10人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～38,000 円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小鹿野中央病院(精神科)、本間医院(内科)、倉林歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、自然に恵まれた環境の中にあり、四季を肌で感じることができる。建物は養蚕農家の旧宅を改造して建てられた木造づくりで、利用者は温かみのある建物の中を、自由に入出入りすることが出来る。また、広い畑を活用して野菜を自給しており、近隣の農家とも交流がある。食事には自家製野菜を採り入れて食の楽しさを提供したり、行事を多く行うことで季節感のある生活を過ごしている。ホーム長は日ごろから地域との関係を大切に、周囲から愛されるよう地域に根ざしたホームづくりに取り組んでいる。明るく家庭的な雰囲気の中で、自立した生活を送れるように心がけているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善課題とされた職員を育てる取り組みについては改善を図り、順次職員が参加し、会議で受講内容を伝達して共有している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で評価の意義を理解し、全職員に改善シートを配布するなどして意見をまとめている。また、会議で改善策について話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回、家族、役場職員、民生委員を交えて運営推進会議を開催している。会議では、主にホームの活動や利用者の状況報告をし共通理解に努めるとともに、家族からの意見や要望等を聞いたりして連携を深めている。また、ホームで開催する行事への参加の呼びかけなども行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは来訪時及び電話等でこまめに連絡しているほか、ホーム便りも発行して利用者の個々の様子を多面的に伝え、情報提供に努めている。また、意見箱の設置や運営推進会議等で意見を出し合い、ホーム運営について話し合っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会、クリスマス会等ホームの行事に地域の方を招待して交流を図っている。また、小中学生ボランティアや高校生体験学習、看護学生の実習の受け入れ等も行っている。その他にも地元の人とお茶を飲みながら会話を楽しんだり、運動会やお祭りなどの行事にも積極的に参加し交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前より掲げている「一人ひとりの気持ちを尊重する」「心のこもった温かいケア」「清潔な環境で健康づくり」という事業所独自の理念に加え、地域密着型サービスの内容を盛り込んだ理念を新たに作り上げ、苑内に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑内に理念を掲示するほか、毎朝、夕の申し送り時に復唱している。また、内容を具体的に理解するよう努め、常に理念を意識しながらケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会やクリスマス会などホームで開催する行事に招待するほか、小中学生ボランティアや高校生の体験学習、看護学生の実習の受け入れなどを行っている。また、地元の人とお茶を飲みながら会話を楽しんだり、運動会やお祭りなどにも参加して幅広く交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で評価の意義を理解した上で意見を出し合い、自己評価に取り組んでいる。また、毎月の職員会議の中で評価について学びあい、改善策を話し合っ、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、ホームの活動状況や利用者の様子について報告するとともに、話し合いを行い共通理解に努めている。また、家族からの要望等を聞いたりすることで連携を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小鹿野町包括支援センターが主催する事例検討会に毎月参加することで、他の事業所の職員や町の職員と情報を交換し、交流を図っている。その際、「わらび苑だより」や収穫祭などの行事について記載した便りなどを届けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「わらび苑だより」や利用者個々の様子を多面的に(健康面、生活面、精神面、その他行事参加について)記した報告書を送付している。また、面会時にもそのつど暮らしぶり等を伝えるとともに、金銭管理についての報告もされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族等から意見を聞くほか、職員との会話の中などからも意見を表してもらうようにしている。職員は利用者の会話(意見)を傾聴し、意見等は運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。親睦会等を実施して職員のストレス軽減を図り、よい環境づくりを心がけている。また、引継ぐ場合は利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者とケアマネージャーは県、市町村、社会福祉協議会等主催の研修会に積極的に参加している。また、職員は研修内容に応じて順次研修を受け、毎月の会議で伝達して共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡市(秩父)の事業者連絡協議会や小鹿野町の研修会を通して同業者間で交流を図るとともに情報交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>雰囲気に馴染んでいけるように、状況に応じて体験入居をすることができ、本人、家族が納得した上でサービスを利用している。また、入居後も利用者一人ひとりのペースで安心して生活できるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、郷土の家庭料理や野菜作り、年中行事など利用者から多くのことを学び、共に過ごす中で支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居前に利用者宅を訪問し、生活状況や環境等の調査を行っている。また、日々の暮らしの中でのコミュニケーションを多くとることで、利用者の希望や意向の把握に努めている。希望や意向の把握が困難な場合は、職員で話し合い本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたっては、ケア会議を行い、職員から出された意見や、家族、必要な関係者と話し合い、利用者一人ひとりに合わせた計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には6か月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状況の変化に応じて随時見直すようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりに応じた個別の外出(理容・美容院・買い物)支援や、他医療機関への通院等柔軟に対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得の上で提携医療機関による定期的な受診支援をしている。また、必要に応じて他の医療機関への受診支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方における対応方法について家族とよく話し合い、提携医とも相談して方針を決めている。職員間では申し送りや会議で説明し方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時や会議の際に、プライバシーを確保したケアについての指導がされている。利用者への声かけ(言葉がけ)や記録の仕方等については会議や申し送り時に注意をするよう話し合われているため、日々ケアに活かされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や生活リズムを尊重しながら、その人らしい暮らしを送れるよう、畑仕事、散歩、買い物等利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、野菜作りや収穫、季節の料理などを職員と一緒にしたり、毎月の外食なども楽しんでいる。また、食後の後片付け等も行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日利用者の要望にそって入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には、時間帯を変えたり入浴剤を使用するなどして工夫しながら入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のその日の体調を把握しながら、趣味や楽しみごとなどの支援をしている。毎日の散歩はもとより読書、農作業、手芸、掃除等利用者のペースに合わせた支援を行って、生活に張り合いを出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を見ながら毎日の散歩やドライブなどを楽しめるように支援している。また、散歩ができない方には、戸外での日光浴ができるように椅子を用意するなど、一人ひとりその日の希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組み、利用者の自由な暮らしを支援している。職員は見守りをしながら利用者の居場所を確認し、必要に応じて職員が付き添うようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施するとともに、毎週消火器訓練を行っている。救急法として心肺蘇生を行うほか、災害時訓練として炊き出しをしたり、ライフライン停止訓練等を実施している。また、消防訓練計画書等を作成し、非常時に備えて飲料水や食料などを準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに必要な食事量、水分摂取量などをチェックし、個別の健康管理台帳に記録して栄養状態の把握に努めている。食事量の少ない方にはサプリメントなどで栄養を補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や飾りつけなどをして季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせるその人らしい居室作りとなっている。		